



1 タンクに上水道の水を入れる

(ドライで使う場合、水は不要)

1 スチーム切換レバーを「**ドライ**」にする
(水漏れ防止のため)

ドライ

2 注水口ふたを開け、水を入れる
上水道の水以外はいれない

こんな水はいれない！
●ミネラルウォーター ●軟水器の水
●アルカリイオン整水器
●リネンウォーターなどの香料を含んだ水など

●タンクに水を入れる前に、電源プラグをコンセントへ差し込まないでください。

3 注水口ふたを閉める

満水目盛まで

2 温度設定ダイヤルを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込む

※電源プラグをコンセントに差し込んでいる間は、アイロンを放置したままその場を離れないでください。

3 衣類の取り扱い絵表示を確認して、温度設定ダイヤルで温度を「目盛合わせ位置」に設定する

●パイロットランプが点灯します。

目盛合わせ位置

	ドライ	少量・標準・増量スチーム	大増量スチーム ショット
「目盛合わせ位置」設定範囲	「低」・「中」・「高」のいずれかに設定	矢印の範囲内で繊維に応じた温度に設定	この位置に必ず設定

※下記の温度設定範囲以外に設定すると、湯滴の原因になります。

4 パイロットランプが『点灯→消灯』したら使用する

(点灯中に使用すると、スチーム・ショットが出にくく、水漏れ・湯滴の原因になります。)

ショットボタン

●**ショットボタン**を操作する。(操作回数の目安：約10回)
2秒間隔より早く操作しないでください。また、ショットの勢いが弱くなったら操作しないでください。(湯滴が出てやけどの原因)
ショットの勢いが弱くなったら、再度パイロットランプが「点灯→消灯」してからお使いください。
●**スチームとショットの両方を使うと、ショットの勢いが弱くなる場合があります。**

パワーショット

アイロンを**水平**にして使う。

ハンガーショット

アイロンを**立て**て使う。

かけ面を衣類から離して、目立たない所のためしがけをしてからお使いください。(特にカシミア等の起毛衣類)

ご使用例

セーター

全体仕上げ
伸びきった袖口やゴム編み部分

ハンガーにつるしたままの衣類に
コートや毛足の長い衣類は...

ショットを全体にかけて形を整えます。
ショットをたっぷりかけ、たて方向に引っ張りながら整えます。
コートや毛足の長い衣類は...
ショットをかけた後、水分を残さないようにお手持ちのブラシで毛足を整えます。

スチーム切換レバー

ドライの場合

切換レバーを「**ドライ**」にする。

温度設定を高い温度から低い温度に変えた場合
●パイロットランプが「**消灯**」→「**点灯**」したら使用する。(消灯中に使用すると、衣類が焦げる原因になります。)

スチームの場合

アイロンを**水平**にし、切換レバーを「**少量・標準・増量・大増量スチーム**」のいずれかに設定する。

少量スチーム (低) 温度の薄手やレーヨンなどの仕上げに
標準スチーム (中) 温度の薄手や混紡などの仕上げに
増量スチーム 厚手の布や綿・麻などの仕上げに
大増量スチーム

温度設定を高い温度から低い温度に変えた場合
●パイロットランプが「**消灯**」→「**点灯**」したら使用する。(消灯中に使用すると、衣類が焦げる原因になります。)

スプレーボタン

ガンコなシワや綿・麻などの植物性繊維のシワ伸ばしに。
アイロンを**水平**にして、スプレーボタンを操作する。
●霧吹きとしてお使いいただけます。
●スチーム切換レバーは、どの位置でも使用できます。
また、設定温度に関係なくお使いいただけます。

お願いとお知らせ

●ご使用中、アイロンを置くときは、平らな所へ立てて置いてください。
●アイロンを横や逆さにしないでください。(水漏れの原因)
●使いはじめに、ににおがすることがありますが、異常ではありません。
ににおが衣類にうつることもありません。

スチーム、ショット、スプレーが出にくいとき

●スチームのとき ... スチーム切換レバーを左右に数回操作してください。
●ショットのとき ... ショットボタンを数回操作してください。
●スプレーのとき ... スプレーボタンを数回操作してください。

※タンクの水が少なくなったときは、満水目盛まで水を入れてください。

-12-

スプレーノズル
かけ面
カバー
満水目盛
タンク
温度設定ダイヤル
目盛合わせ位置
パイロットランプ
点灯・消灯により温度調整していることをお知らせします。
スタンド部
(裏面) 繊維案内が表示してあります。

開閉
注水口ふた
スチーム切換レバー
スプレーボタン
ショットボタン
とって

電源コード
交流100V
電源プラグ

目づまり防止機能について

スチーム穴の目づまりを起こしにくくします。
●週2回(30分のアイロンかけ)のご使用で、約15年効果が持続します。
※使用条件(水質等)によって異なります。

付属品
注水コップ(約300ml)

-9-

うっかりSTOPパー

水平の状態

で放置したとき
約1分後、自動的にヒーター回路が切れる。

※続けてご使用になるときは、水平の状態でご使用に数回動かしてからお使いください。ヒーター回路への通電が開始します。
また、パイロットランプが点灯している場合は、消えるまで待ってからお使いください。

立った状態

で放置したとき
約10分後、自動的にヒーター回路が切れる。

水もれSTOPパー

使用中、かけ面温度が下がると、スチームが止まります。
作動するとき、内部で「カチン」と音がします。

●布地を傷めないために

低温・中温表示などの熱に弱い布地や色の濃い布地には、目立たない部分に「ためしがけ」をし、必要に応じて「あて布」をしてください。

●繊維専用です。
他の目的では使わないで！

●布地のテカリを防止するには「あて布」をしてください。

絵表示の見かたと温度の関係

絵表示の見かた例

中	〜線は指示温度で当て布をする意味です。
中から	指示温度で布地の裏からかける意味です。
アイロンかけはできません。	

その他「スチーム禁止」などの表示があれば、その表示に従ってください。

絵表示と温度の関係

繊維製品の種類	低	中	高
衣類・布地の種	アクリル系 アクリル系 ポリウレタン ポリプロピレン	絹・毛・ナイロン ビニロン・レーヨン(長繊維) キュプラ・アセテート ポリエステル	綿 麻 レーヨン(短繊維) ポリノジック
温度設定位置	低	中	高
かけ面の温度	約80〜120℃	約140〜160℃	約180〜200℃
設定温度になるまでの時間	約40秒	約1分	約1分40秒

※混紡の場合は、低い方の繊維の温度に合わせてください。

-10-

5 ご使用後は

1 スチーム切換レバーを必ず「**ドライ**」にする
(水漏れ、腐食防止のため)

2 温度設定ダイヤルを「**切**」にする

3 電源プラグをコンセントから抜く
(水漏れ、腐食防止のため)

4 かけ面を上にして、水を捨てる。
●水を捨てた後、タンクに水滴が残りますが、差し支えありません。

5 必ず**立てて**安全な場所に収納する
アイロン内部の腐食を防ぐために
●電源プラグを抜いたときや、温度設定ダイヤルを「切」にしたときは、ショットを使用しないでください。
●冷めてから排水したときは、「高」目盛で約5分間、通電してください。

お手入れ

※電源プラグを抜き、よく冷めてから！

かけ面に付着したのりは...
よく冷めてから、その都度よく絞った**ぬれた布**でふき取る
※クレンザー・シンナーなどは使わないでください。

アイロンは...
「やわらかい布」でふく
※汚れがひどいときは、薄めた台所用洗剤(中性)を布に含ませてください。

スチーム穴がつまったらときは、お近くの販売店に修理をご依頼ください。

-14-

アイロンかけのポイント

すべらす

必要以上の力をかけないで衣類の上を軽くすべらせるだけでOK！

両手を使って

空いた方で布地を引っ張ったり、アイロンを持ち替えたり、両手でまんべんなく。

押さえる

折り目ははっきり付けたい所やガンコなシワの部分はしっかりと押さえて。

一方向に

往復させたり、無理な方向にかけると、もどりシワの原因になります。

浮かせる

毛足の長いウール織物の仕上げや、こみ入ったデザイン部分の仕上げに。
縫い目は引っ張り気味に

横

引っ張りながら、両端から中央に向かって半分ずつかけます。

低温のものから高温のものへ

アイロンの温度上昇に応じてかけると、時間のムダがありません。
※高い温度から低い温度に設定すると、低い温度になるまで十数分かかる場合があります。

低 → 中 → 高

スプレーのり・洗濯のりなどを使うとき

スプレーのり等の仕上げ剤

洗濯物をよく乾かしてからスプレーのりをかけ、必ず「**ドライ**」でアイロンかけを！(P.13)

●少し固めに仕上げたいときは...
スプレーのり → アイロンかけ(ドライ)を繰り返します。
(一度に多量のスプレーのりをかけると、かけ面にこびり付く原因になります。)

洗濯のり付けをした生乾きの衣類

「**ドライ**」でアイロンかけを！

接着芯地など、のりが付いているもの

必ず「あて布」をして、アイロンかけを！

かけ面にのりが付着した場合は、その都度お手入れを！(P.14)

※付着したまま使うと、かけ面にのりがこびり付き、取れにくくなります。
また、かけ面に布の色が付着し、布に色移りする場合があります。

-11-